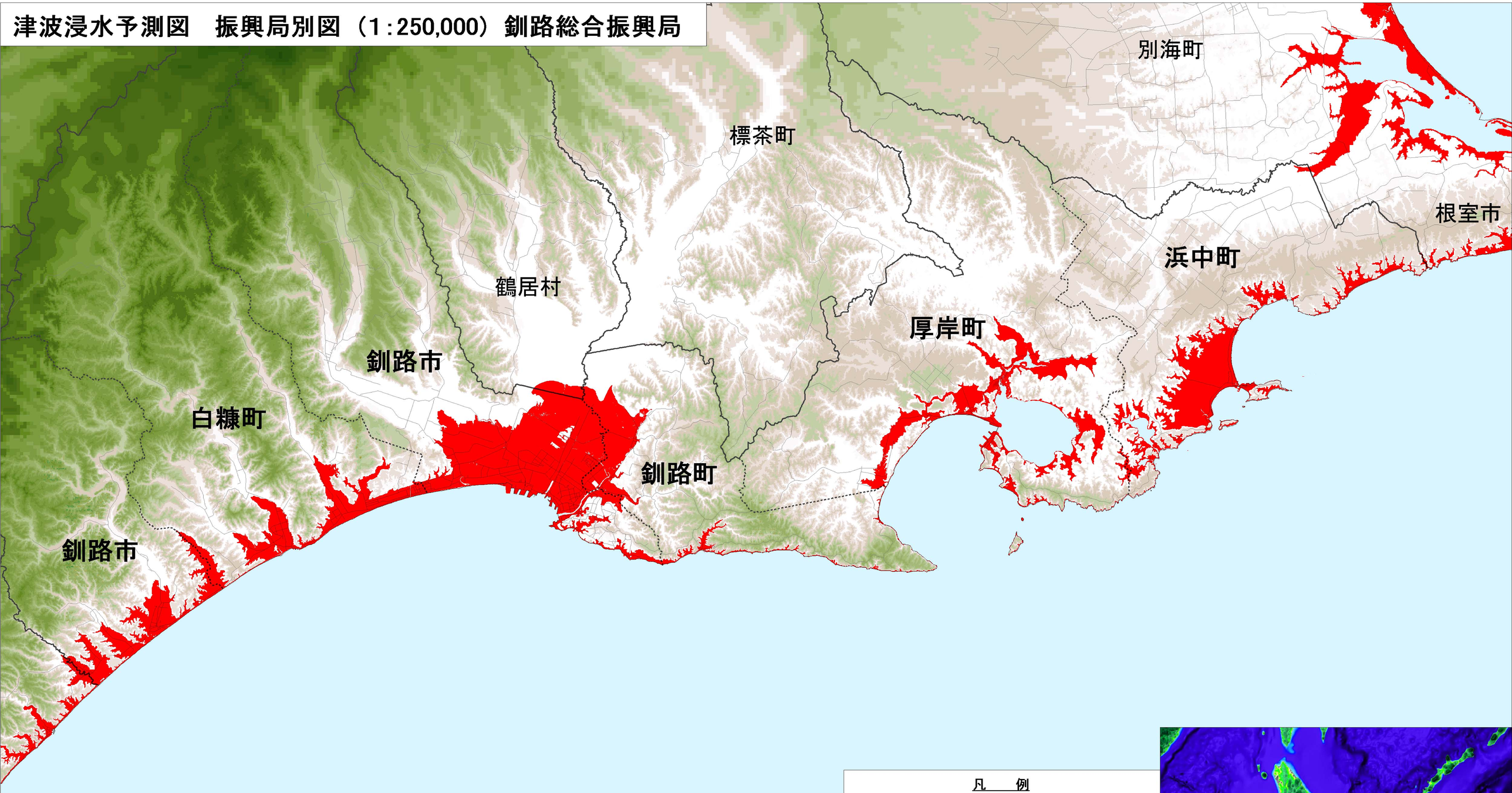
津波浸水予測図　振興局別図（1：250,000）釧路総合振興局



本図は、2011 年までに北海道太平洋沿岸で行われた津波堆積物の各種調査を踏まえて推定された「最大クラスの津波」による波高と浸水域の想定結果である。この津波波源モデルは、様々な仮定のもとに推定されており、次に起きる津波の特徴を正確に予測するものではなく、北海道太平洋沿岸を過去に襲った最大津波を説明できる多くのモデルのうちの一つである。津波は自然現象であるためその想定を正確に行うことはできないこと、また、津波堆積物データにも地域的な偏りがあることから、過小評価や過大評価となっている地域があることに注意する必要がある。今後の調査研究の進展や、国の中央防災会議等における検討を踏まえて適宜検証し見直していくべきものである。

津波は、平野部や谷部など地形的な特徴により津波波高以上の高さまで遡上・浸水する可能性がある。**市街地や集落等がどのような地形的土地条件に位置しているかを認識し、今後の津波防災対策の検討に活用して頂きたい。**

【北海道に津波被害をもたらす想定地震の再検討のためのワーキンググループ】

0　5　10　15　20km

N
S

凡　例

津波浸水予測範囲
（想定津波の最大浸水範囲）

■最大浸水範囲

——— 振興局境界

---------- 市町村境界

［シミュレーション条件］
本浸水予測図は、想定津波について下記の条件によりシミュレーションを行い２ケースの最大の浸水範囲、浸水深を表示しています。

（１）構造物
効果あり：防波堤、海岸堤防、防潮堤、河川堤防などの施設が、全て有効に機能したケース。
効果なし：防波堤、海岸堤防、防潮堤、河川堤防など施設の機能が失われたと想定したケース。

（２）潮位　：朔望平均満潮位
（各月の最高満潮面を平均した潮位）

